

【水と生きる】

福岡県

久留米信愛中学校

三年

杉野

結菜

私の住んでいる日田市は「水郷ひた」と呼ばれています。なぜそのように呼ばれているのか、それは日田市は古くから山紫水明の里とされてきたからです。そんな日田市の中でも代表的な「三隈川」という川があります。夏には小魚がすいすいと泳ぎ、屋形船が浮かんでいます。夏の風物詩として私たち日田市民の心を安らかにしてくれます。このように市民に安らぎを与えてくれる三隈川ですが、豪雨時は氾濫や住宅への浸水などの被害が頻発する川でもあります。

令和二年七月、記録的大雨によって河川の氾濫や土砂崩れなどが発生しました。これらは日田市に甚大な被害をもたらしました。川を泳いでいた小魚は消え、静かに浮いていた屋形船はボロボロに崩れ、平穏だった三隈川は一瞬にして消え去りました。当時ニュースで見た荒れ狂う三隈川は今でも忘れられません。日田市はこれ以前にも水による多大な被害を何度も受けています。水による被害とは切っても切れない関係なのです。

そこで、このような甚大な被害を受けた日田市は、町の復旧や復興、再発を防ぐための取り組みが行われました。水田を活用する田んぼダムやハザードマップの提供、防災情報の伝達など様々なことを行いました。これらがなければ近年起こった洪水などの被害はまだ大きかったことでしょう。水は私たちの身近にあり生活の必需品であるが時には脅威ともなる。川が身近にある私にとってこのことは本当によくわかります。だからこそ私は災害からの被害を抑え、大切な人を守るように自分にできる対策をしていきたいです。

このように人や動植物の脅威ともなり得る河川ですが、初めに書いたとおり私たちに安らぎを与えてくれます。綺麗な水は水辺で暮らす生き物にとつて暮らしやすい環境に、植物には成長していくために必要不可欠な大切なもの、そして私たちにとっては美味しい水や魚などの暮らしを豊かにして

くれるものとして古くから大切にされています。私がまだ幼い頃、三隈川のそばにある公園で鮎の掴み取りをしました。三隈川は鮎の産地として古くから名を馳せています。このイベントではプールで鮎を掴み取りし、取ることできた鮎を公園のそばにある鮎やな場で炭火で焼いてもらいそれを食べることが出来ます。私は当時頑張つて取った一匹を焼いてもらいその場で食べました。そこで初めて鮎を食べたのですが、綺麗な水で育ってきた鮎はとても美味しかったです。また日田は鮎だけでなくなぎも有名であり、水が綺麗な日田の魅力の一部でもあります。これらの他にも三隈川の上を優雅に浮かぶ屋形船、川ではありませんが深い地下から汲み上げられる日田天領水などもあります。

そんな沢山の魅力のある地元、日田をこれからも守っていききたい。ですが最近世界的に環境汚染が問題となっています。そんな中、私たちにできることは何かないのか。例えば、ポイ捨てをしない、ポイ捨てを見かけたら拾ってゴミ箱に捨てる、スリール（リデュース、リユース、リサイクル）を心がける、水の無駄遣いを減らす、などのことが大切ではないかと思いました。水は私たちの生活必需品であり、それは私たち人間だけでなく動植物、そして環境にとつてもとても大切なものです。まずは身近にできることから少し意識して気をつけていくことが環境汚染をなくしていくことに繋がるのではないのでしょうか。自分が今できることをして水と共に生きていくことが大好きな地元をこれからも守っていくことに繋がると私は思います。